



有限会社 吉田工業

vol.42

2026 年 10 月 15 日発行



コスト意識を

現場のアクションへ!

現場リーダーが語る「私たちが今できること」



放射線管理課

すずき

まお

鈴木 慎生さん

前回の記事からの気づき

コストは経営的な問題と考えていましたが、**一人ひとりの業務につながるもの**だと気づきました。無駄や手戻りを減らすこと、つまり日々の「段取り」がコスト削減において最も重要です。

これがもったいない……!

事前の確認が足りず、作業途中で道具を取りに戻る時間です。現在の現場では移動にバスを利用するため、手戻りは大きな時間の無駄となり、お客様をお待たせする原因にもなってしまいます。

若手社員へ伝えるときの工夫

「コスト削減」という言葉は使わず、「事前確認で手戻りをなくそう」と具体的な行動として伝えています。若手が緊張しないよう、日頃から雑談を交えて親しみやすい関係を築き、和やかに指導しています。



チームとしての挑戦

今後は、チーム内で無駄を省く議論や、振り返りによる成功事例の共有を増やします。重苦しい雰囲気を作らず、結束力を高めながらコスト削減に挑戦します。



全社で取り組むコスト意識向上企画の第2弾。
現場を支える鈴木さんと村山さんは、前回の記事を自分事としてどう捉え、
そのメッセージを自分のチームにどう落とし込んでいるのでしょうか。
現場リーダーならではの**視点**と、チームを動かすための
具体的な**工夫**をご紹介します。



建設工事部機械課 主任

むらやま ひろと

村山 紘斗さん

前回の記事からの気づき

コストカットというと消耗品を減らすことだと考えがちですが、人件費を抑えることも重要だと理解しました。ただ作業員を減らすのではなく、**一人ひとりのモチベーションを上げて作業効率を良くすることが大切**です。また、道具の扱いにはより意識を持たなければならないと再認識しました。

これが課題……！

若手の様子を見ていると、分解した部品と道具が同じ箱に混ざるなど、片付けに課題があります。「一仕事一片付け」の習慣がまだないため、作業の区切りで整理整頓するよう意識づける必要があります。

若手社員へ伝えるときの工夫

部品の紛失を防ぐため、若手にはその都度根気よく伝えていきます。一方で、休日の過ごし方などプライベートな話題も交えて適度に緊張をほぐし、メリハリをつける工夫も。まずは前向きに仕事へ取り組める環境をつくっています。



チームとしての挑戦

いきなりコスト削減を厳しく求めるのではなく、まずは現場の皆が楽しく笑顔で仕事ができるよう、モチベーションを上げていきたいと思っています。





社員旅行へ

行ってきました!

社員同士の交流が深まり、
たくさんの笑顔が生まれた社員旅行。

その旅の思い出を
幹事の松本さんと
参加者のギミレさんに
伺いました!

まつもと あつし
松本 厚さん



旅行の思い出

今回の社員旅行では、普段の工作中にはなかなか話す機会のない社員同士で、ゆっくり交流することができました。

幹事で大変だったこと

今回、社員旅行の幹事を担当して、一番大変だったのは、参加する皆さんが楽しめるように予定を組むことでした。一緒にやってくれた村山さんが色々と考えてくれたり、食事や宴会でみんなをエスコートしてくれたり、大変助けてもらいました。

次回の幹事へのアドバイス

事前準備と周囲への協力要請が大切

これから幹事をする人には、できるだけ早めに準備を始め、当日の予定や連絡事項を事前に共有しておくことをおすすめします。また、すべてを一人で抱え込まず、周りの人に協力をお願いすることも大切です。多少予定どおりにいかないことがあっても、余裕を持って対応すれば、きっと楽しい旅行になります。



ギミレ プラサムさん



旅行の思い出

箱根に行ったことが特に思い出に残っています。普段とは違う場所で、みんなで一緒に楽しい時間を過ごすことができました。社員の皆さんが楽しそうにしている姿を見ることができて、私自身もとても嬉しく、良い思い出になりました。

旅行で得たことと今後の意気込み

深まった交流を今後の仕事に活かす

今回の旅行で、仕事では見ることでしかない皆さんの楽しそうな一面を見られ、より親しみを感じました。また、みんなで一緒に過ごすことで、コミュニケーションを深める良い機会になりました。今回の経験を大切に、これからも周りの皆さんと協力しながら、仕事にも前向きに取り組んでいきたいと思います。



インターンシップを通じて感じた自身の成長

未経験の学生に自分の技術を教えられるようになったことです。入社当時はゼロからのスタートだった私が教える側となり、学生が少しでも作業できるようになった姿を見たときには、同時に自分の成長を実感しました。

学生から 得た刺激

今回参加されたのは、ネパールの方2名と日本人の方1名です。実際に作業をしてもらう中で、皆さんの物覚えや理解の早さに感心しました。知識がゼロだった頃の自分と比べても、その吸収力には驚かされます。



建設工事部機械課 主任

むら やま ひろ と

村山 紘斗さん

今後の 目標

「あの人の現場は楽しいから行きたい」と思ってもらえるような先輩になりたいと思います。やはり、笑顔が増える現場の方が良い雰囲気になるはずです。これからも皆が楽しく働ける現場を作っていきたいと思います。



学生も社員も成長！ インターンシップ レポート

学生とのインターンシップは、教える側である私たちにとっても大きな学びの場となります。実際に学生と接した村山さんと相笠さんに、人に教えることで実感した自身の成長や「これからどんな先輩になっていきたいか」を語っていただきました。

インターンシップを通じて感じた自身の成長

入社時は仕事がわからず必死でしたが、1年で道具名や作業順序がわかるようになりました。学生に過去の自分を伝える中で、道具を自ら説明できるほど成長していることに気づけました。現在は作業の先を予測し、現場で上司をサポートできるよう努めています。

学生から 得た刺激

作業に積極的な学生の姿から仕事への熱意を感じました。また、上司がーから指導する様子に自分の職場体験を重ね、初心に返ることができました。今後、後輩が入社した際にはしっかり見本になろうと気が引き締まる思いです！

今後の 目標

良い見本となる先輩を目指します。技術だけでなく、挨拶や礼儀といった常識、仕事への姿勢など、模範的に取り組むことが目標です。私自身まだ見習いですが、現場で迷わず対応し、わからないことは素直に聞き、後輩に優しく教える存在になりたいと思います。



工事課

あい かさ ふう が

相笠 風雅さん

ホッネを探る！



すれ違い 解決室

1 指示・指導の 困りごと& 失敗例

背景の共有意識と 立ち止まる余裕を持って

- 放射線管理は状況判断が重要だと指導した。指示の背景を理解していれば、現場で想定外の事態が起きても適切に判断できる。「言われたからやる」ではなく、なぜ必要かを理解して行動できる力を身につけ、自分で安全判断ができるようになることを期待している。
- 作業をしながら相手に別の作業内容を説明したために、想定外の行動をしていたことがある。説明する際は、自分も少しでも立ち止まらなければならないと思った。



指示・指導の 成功例&工夫

2

「なぜ」を伝え、 段階を追う丁寧な 姿勢が重要

- 線量計の着用位置や向き的重要性について、胸（男性）やお腹（女性）につける理由を、「体の中で一番被ばく評価に使う位置であって、重要な臓器が集まっている場所だから」と説明した。すると理解してくれ、指示がしっかり伝わったと感じた。
- 同じ作業を続けていく中でも、段階を追って少しずつ作業の内容や理由を具体的に教えていったことが相手の理解につながったと思う。

OK!



!?

報告・相談の 改善提案

3

問題は抱え込まず 周りに頼って！

- 問題が起きても「自分で何とかできるかも」と判断し、報告を遅らせるケースがある。結果その問題が解決できず、被害が拡大する。業務は一人でやっているのではなく、チームでやっているということを認識してほしい。



皆さん、上司や部下と接する際、
すれ違ってしまった経験はありませんか？
本企画では、両者の「ホンネ」を徹底ヒアリング。
コミュニケーションギャップの原因と
関係改善のヒントを探ります。



聞きたい！

部下SIDE



1

指示・指導の 困りごと

人によって
変わる手順や俗称が、
混乱を招く

- 工具、道具を俗称で言われると、わからないことがある。
- 同じ作業内容でも人によって手順や方法が変わることがあり、覚えづらく感じる。
- 余裕がないと言葉遣いが悪くなる。
- 上司が忙しくしているときは、声をかけるタイミングを少し考えてしまい、相談しづらいとすることがある。

2

わかりやすかった 指示

理由と見通しのある
論理的な説明が、
安心感を生む

- 自分のレベルに合わせて論理的に説明してくれる。
- 次に何をするか説明をしてから、必要な道具を指示してくれる。
- 応用の作業方法を先に教えてもらい、基本のやり方は頭で理解していれば良いと言われ、後々理由もしっかり説明してもらえるのがとてもわかりやすく感じた。
- 作業の際、やることや注意するところをわかりやすく説明してくれると、何をすればいいかわかりやすい。わからないところを聞いたときも教えてくれるため、作業しやすいと感じた。

報告・相談の 改善提案

3

どんなに忙しくても、
気遣う「一言」が
相談のハードルを下げる！

- 忙しいときでも、「わからないことあったら聞いて」と一言声をかけてもらえると、相談しやすいと思う。



お互いに注意して
進めましょう！

